

福島県沖地震 「インフラ被害は限定的」

足立参院議員 耐震対策に効果

足立敏之参院議員は建設専門紙の取材に対し、13日に発生した福島県沖地震のインフラ被害について「東日本大震災以降の耐震対策が効果を発揮し、被害を最小限に抑えることができた」と評価した。東北新幹線は耐震対策を実施していなかった電化柱20本の倒壊によ

東日本大震災と福島県沖地震の鉄道被害

	東日本大震災	福島県沖地震
発生	2011年3月11日	2021年2月13日
地震の規模	M9.0	M7.3
被害を受けた区間	東北新幹線	東北新幹線
電化柱の折損等	約810本(本震約540、余震約270)	20
高架橋の柱の損傷	約120本(本震約100、余震約20)	複数(大きな被害なし)

り、一部区間の運転を完了させたが、「対策を完了していた電化柱や高架

橋に被害はない。しっかりと対策を講じれば被害は軽減できる」と耐震化の重要性を改めて訴えた。

東日本大震災で電化柱約810本（うち、本震約540本）が損傷を受けたことを教訓として、JR東日本は昨年12月までに約2200カ所の耐震対策を完了。福島県沖地震で対策が完了した電化柱に被害はなかった。同様に耐震化を進めてきた鉄道高架橋には被害はなく、足立議員は一しつかりと対策を講じれば被害は軽減できる」と東日

土砂崩れで一時通行止めとなった常磐道（相馬新地IC間）については一暫定2車線を4車線にしていけば通行止めは起きなかった」と述べ、早期に4車線化を実現する必要性も強調した。